

# 2019年度夏の三者総会 議案書

令和1年8月7日(水)9時30分開始  
於・白浜荘

本議案書は、令和1年8月7日(水)に夏の学校会場(白浜荘)にて開催される夏の三者総会に提出されたものである。提出された議案は以下の2つである。

## 目次

<b>1</b>	<b>2019年度修正予算案</b>	<b>[’19/08/04 現在]</b>	<b>2</b>
<b>第I部 title</b>			
1.1	収支の概要		2
1.2	収入予定		2
1.3	支出予定		3
1.3.1	各役職校の支出内訳		3
<b>2</b>	<b>夏の学校の今後について</b>		<b>5</b>
2.1	最初に		5
2.2	現状		5
2.3	問題点		5
2.4	提案1：センター校及び準備校新ローテーション(開始時期：2021年度)		6
2.5	提案2		7
2.5.1	提案2-1：開催地の固定(開始時期：2021年度)		7
2.5.2	提案2-2：運営側学生の金銭的補助(開始時期：2020年度)		8
2.6	提案3：夏の学校の形態の変更(開始時期：2020年度)		8
2.7	役職校の業務		9
2.7.1	三者センター校		9
2.7.2	三者準備校		10
2.7.3	三者企画校(2020年度より)		10
2.7.4	三者事務局校		11
2.7.5	ハラスメント対策委員会		11
<b>3</b>	<b>補足資料</b>		<b>12</b>
3.1	2016年度ローテーション制度の要約		12

# 1 2019年度修正予算案

[ '19/08/04 現在 ]

文責：松本信行 (京都大学)

2019年度春の三者総会にてご承認いただいた「2019年度修正予算案」に以下2点の修正を加え、改めて「2019年度修正予算案」を提出いたします。何卒ご承認をよろしくお願い申し上げます。

(1) 各役職校予算の修正 (三者準備校・素粒子論パート準備校・原子核パート準備校)

(2) 参加登録者・旅費補助申請者の情報を反映

また、日付が2019年8月4日(日)となっている理由について付記します。これは議案締め切り後に予算内容が大きく変動したため、事務局校に許可をいただき、できる限り最新の数字に更新をしたためです。この点についても、ご了承をお願いいたします。

## 1.1 収支の概要

(+) が今年度の収入を、(-) が今年度の支出を表す。

項目	本予算案	前年度決算
参加登録費	+¥876,000	+¥948,000
素粒子論グループ援助金	+¥450,000	+¥450,000
基研援助金	+¥499,912	+¥500,000
前年度繰越し金	+¥755,745	+¥859,876
旅費補助 (招待講師)	-¥0	-¥102,160
旅費補助 (学生参加者)	-¥1,110,700	-¥1,342,840
ポスター印刷費	-¥99,012	-¥0 <sup>*1</sup>
役職校支出	-¥523,756	-¥557,131
次年度繰越し金	¥848,189	¥755,745

\*1 前年度では、ポスター印刷費が役職校支出に含まれている。

## 1.2 収入予定

(1) 参加登録費 (参加者:219名) : ¥4,000 × 219 = ¥876,000

(2) 外部団体からの援助・協賛金 : ¥949,912

団体名	内容	申請額	援助額	差額
素粒子論グループ <sup>*1</sup>	旅費	¥450,000	¥450,000	¥0
基研 <sup>*2</sup>	講師旅費 (学生発表者含む), ポスター印刷費	¥500,000	¥499,912	-¥88
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0	¥0	¥0
仁科加速器センター	協賛	¥0	¥0	¥0
KEK	協賛	¥0	¥0	¥0
RCNP	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費	出版費	-
合計		¥950,000	¥949,912	-¥88

(3) 前年度繰越し金 : ¥755,745

収入合計 : (1) + (2) + (3) = ¥2,581,657.

### 1.3 支出予定

(1) 旅費補助：¥1,110,700

(2) ポスター印刷費：¥99,012

(3) 各役職校支出：¥523,756 (詳細な内訳は次節に記載)

役職名	旧修正予算案	新修正予算案	差額	前年度決算
三者				
センター校	¥12,000	¥12,000	¥0	¥37,307
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥562,244	¥492,694	-¥69,550	¥504,460
素粒子論パート				
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校兼講義録校 (場の理論)	¥16,000	¥16,500	+¥500	¥14,284
講義録校 (現象論)	¥0	¥0	¥0	¥0
講義録校 (弦理論)	¥0	¥0	¥0	¥0
原子核パート				¥0
センター校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥4,000	¥2,562	-¥1,438	¥1,080
ハラスメント対策委員	¥0	¥0	¥0	¥0
合計	¥594,244	¥523,756	-¥70,488	¥557,131

支出合計：(1) + (2) + (3) = ¥1,733,468

次年度繰越し金：(収入合計) - (支出合計) = ¥848,189 (対前年差 + ¥92,444)

#### 1.3.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (京都大学) [修正なし]

項目	予算案	前年度決算
振込手数料	¥12,000	¥11,807
賞状代	¥0	¥1,120
高エネルギー春の学校参加補助	¥0	¥24,380
合計	¥12,000	¥37,307

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

高エネルギー春の学校参加補助：春の学校への参加費 (目的:夏の学校への参加をお願い)

- 三者準備校 (金沢大学、九州大学)

項目	旧修正予算案	新修正予算案	差額	前年度決算
施設使用料	¥371,250	¥413,380*1	+¥42,130	¥270,000
施設予約金	¥30,000	¥0*1	-¥30,000	¥0
コピー代	¥2,000	¥0	-¥2,000	¥2,113
消耗品代	¥10,000	¥6,754	-¥3,246	¥19,094
郵送費	¥20,000	¥0	-¥20,000	¥17,762
会場下見代	¥72,560	¥72,560	¥0	¥20,020
レンタカー代	¥36,434	¥0	-¥36,434	¥51,855
ポスター制作費	¥20,000	¥0	-¥20,000	¥99,876
前日入り宿泊費	¥0	¥0	¥0	¥23,740
合計	¥562,244	¥492,694	-¥69,550	¥504,460

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：書類のコピーにかかる費用(ポスター印刷は除く)

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

会場下見代：会場下見にかかる旅費

レンタカー代：夏の学校期間中に借りるレンタカー代、ガソリン代

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費

前日入り宿泊費：準備のため前日入りする人の宿泊費

\*1 予約費は施設使用料の前払い分であり、施設使用料とは別にホテルに支払っている訳ではないので、最終の予算案の中では予約費を0円とした。

- 三者事務局校(大阪市立大学)[修正なし]  
予算申請無し。
- 素粒子論パート準備校(名古屋大学)

項目	旧修正予算案	新修正予算案	差額	前年度決算
録音・録画機材代	¥6,000	¥3,000	-¥3,000	¥5,940
ケーブル・端子代	¥0	¥5,500	+¥5,500	¥0
消耗品代	¥3,000	¥2,000	-¥1,000	¥2,355
印刷代	¥1,000	¥0	-¥1,000	¥0
機材送料	¥6,000	¥6,000	¥0	¥4,877
ハンドベル代	¥0	¥0	¥0	¥1,112
合計	¥16,000	¥16,500	+¥500	¥14,284

録音・録画機材代：録音・録画保存用SDカード購入費

ケーブル・端子代：プロジェクターを使用する際に必要なケーブル・端子の購入費

消耗品代：電池、ホワイトボードマーカーなどの購入費

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運搬費

ハンドベル代：ハンドベル購入費

- 原子核パート準備校(大阪大学)

項目	旧修正予算案	新修正予算案	差額	前年度決算
消耗品代	¥3,000	¥1,812	-¥1,188	¥1,080
印刷代	¥1,000	¥750	-¥250	¥0
合計	¥4,000	¥2,562	-¥1,438	¥1,080

消耗品代：ホワイトボードマーカー、レーザーポインター用の電池

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

## 2 夏の学校の今後について

文責：島山洸太 (静岡大学)

### 2.1 最初に

今回の提案は、これまで事務局校が手探りで行っていったセンター校及び準備校の選定についてある程度固定化を行うことで、夏の学校の存続を保とうとするものです。これまでのやり方を続けた場合、夏の学校の開催が危ぶまれる事態に陥る可能性は高いと考えられます。また、業務の削減によりこれまでに比べて少ない人数でも業務が行えるようにするものです。その中で、これまでの夏の学校に対するイメージと変わってしまうところもありますが、夏の学校の目的は果たしながら変更しようとするものです。

くり返しになりますが、今回の提案は夏の学校を継続していくために必要なことであると考えています。時代に即した組織や夏の学校づくりであることをご理解いただけるとありがたいです。

### 2.2 現状

三者事務局校の役割の一つに「三者役職校の選定」があります。自分が担当した年の2年後の三者事務局校と3年後の三者センター校及び三者準備校の選定をしなければいけません（以下では、三者〇〇〇校を省略して〇〇〇校と表記します）。静岡大学は2018年度事務局校として、2021年度センター校及び準備校の選定をする必要があります（なお、2020年度事務局校は選定済みです）。

しかしながら、近年のセンター校及び準備校の選定は困難を極めることが多くなっています。人数不足を理由の一つとしてセンター校または準備校の依頼を断られることがあります。「2016年度春の三者総会」にて提案されたセンター校及び準備校の「ローテーション」というものが提案されました[1]が、ローテーションに組み込まれる大学を決めただけに留まり確定したものではありませんでした。そのため、各年度の事務局校がローテーションに入っている大学にセンター校または準備校の依頼をするという形をとっていました。しかし、ローテーションが提案された当時に見積っていた在籍者数と現状の在籍者数に開きが出ているようで、機能していません。

### 2.3 問題点

#### 1. 人数不足

上の現状でも触れましたが、依頼をして断られる理由の一つとして「人数不足」が挙げられます。センター校及び準備校の業務は、夏の学校当日のもの（と一部は夏の学校の後）のものがあります。細かい業務内容はここでは触れませんが、夏の学校当日の業務は

初参加になる M1 を含め担当校のメンバーで行っているようです。当日以外の業務には対外的な交渉事も含まれますが、そこでは博士課程や進学する M2 の学生（担当する夏の学校開催時点で D2 または D1）を中心となって業務を行っているようです。これらを含め、依頼されて断られた理由と「三者若手名簿」から読み取ることのできる在籍者数や学年などの情報を総合すると、次のことが考えられます。

- 当日参加できる人数を予想できない。  
センター校及び準備校は、担当する前年の夏の学校の時点で決まっていなければ引き継ぎができません。ただ、夏の学校間近まで担当校が決まっていなければ、翌年の夏の学校の開催が不透明になることから、依頼はそれよりも前からしています。そうすると、担当年度の修士学生の人数はわかりません（依頼時点では学部学生のため）。
- 中心となる上の学年の学生がいない可能性がある。  
担当年に D2 または D1 になる学生は、依頼時点では M2 または M1 です。しかしながら、依頼時点で修士学生の人数が少なければ担当年に業務が円滑にできるかわかりませんし、人数が多くても担当年にどれだけの人数が残っているかも不透明な面があるかと思えます。

## 2. ローテーション方法の不明確さ

ローテーションに組み込まれる大学を決めたものの、どのように回していくかを決めていなかったため、パート役職校の担当になってしまい、三者とパートの役職校を連続して行う事態に陥ってしまう大学も出てきてしまいました。パートの方でも役職校を担うことができる大学が限られてしまっているためであると考えられますが、ローテーション方法を明確に示しておけば、連続して役職を行うということは避けられるはずです。

## 3. 業務内容の不明確さ

「どのような業務があり、どれほどの人員がどのタイミングで必要なのか」ということをしっかり把握できていないために、役職校を担当することへの抵抗感が存在する可能性もあります。過去に担当したことのある大学にとっては、先輩からの話で印象づいてしまっていることもあるのかもしれませんが。様々な変更を経て、現状どのような業務があり、どれだけの人員と時間を割くべきなのかを明らかにしておく必要があるのではないのでしょうか。

業務については、以下の 2.7 役職校の業務を参照してください。

## 2.4 提案 1：センター校及び準備校新ローテーション（開始時期：2021 年度）

過去にセンター校及び準備校のローテーションが提案されましたが、現状機能していません。夏の学校運営で中心的役割を果たすセンター校及び準備校を引き受けていただけない現状は、夏の学校の継続を不安定なものにしてしまいます。そこで、新たなローテーションを提案します。<sup>1</sup> この提案により担当校の安定化が図られ、夏の学校の継続につながると考えています。

1. ローテーション大学は規模が大きく原子核、素粒子両方の研究室が存在する北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、九州大が担う。
2. ローテーションに関して不都合が生じた場合、以下のように対処する。
  - (a) 人手が足りない場合、ローテーション大学以外の大学と共同で担当する。ローテーション大学から要望があれば、共同する相手方の大学を事務局校が探す。

<sup>1</sup>ローテーションの方法は 2016 年度春の総会議案書通りに可決

- (b) 担当できない場合、ローテーションを繰り上げる、順序を変更する、またはローテーション以外の大学から担当を探す。この場合は、担当予定であったローテーション大学が他の大学との交渉を行う。必要な情報は、事務局校が提供する。

3. ローテーションの変更（ローテーション校の離脱、追加）は、三者総会で発議し承認を取る。

- メリット

- － 夏の学校の運営上不可欠なセンター校と準備校が、ほぼ自動的に決まることで他の役職校を決めやすい。また、役職校を選定する事務局校の負担も軽減される。
- － イレギュラーな事態にも対応できるようになっているので、夏の学校の継続の安定化を図ることができる。

- デメリット

- － 一部の大学の負担の下に成り立つ制度ではないのか。  
→ 確かにローテーションに入っただく大学には負担になってしまうかもしれませんが、博士学生や進学する修士学生が在籍している可能性の高い大学は旧帝大となると考えられます。夏の学校を安定的に開催するためにご理解ください。また、他の大学には他の役職校を担ってもらうので、三者全体と考えた場合には一部の大学のみ負担を強いるものではないと考えます。

この提案は、夏の学校の運営で中心となるセンター校及び準備校の担当校を安定化させるためのものです。相対的に在籍者や博士学生の多い旧帝大を中心に運営をし、足りない部分は他大学が補うという形です。

## 2.5 提案2

運営側の負担を軽減することで、役職校を担当することへの抵抗感を軽減するための提案をさせていただきます。

### 2.5.1 提案2-1：開催地の固定（開始時期：2021年度）

準備校の業務の一つに「夏の学校開催地の選定」があります。会場の下見などを行うため、開催地から離れた大学が準備校になった場合、負担が大きくなってしまいます。ここでは、開催地を固定することを提案します。具体的な開催地については今後検討します。なお、2020年度の開催地は決定しています。

- メリット

- － 開催地を固定することで下見の必要がなくなり、準備校の負担が軽減される。
- － 会場や部屋の割り振りも前年までのものを例にすればよい。

- デメリット

- － 開催地を固定することで距離的な不公平感が出る。  
→ 交通の便の良い場所（例えば、東京や大阪などの首都圏）を選べば、ある程度の負担感は軽減されると考えている。

開催地は過去に夏の学校が行われた場所が望ましいでしょう。また、固定した開催地が使いにくくなってしまふ事態に備えて、複数の候補を挙げておくべきでしょう。以下に候補地の一例とその選定理由を挙げます。

開催地の候補：国立オリンピック記念青少年総合センター（最近では、2017年度夏の学校が開催された）

理由：場所は都内（代々木）であり、交通の便がよい。食事はチケット制なので食事のときに受付が必要ないため、準備校の業務が減らすことができる。活動を行う部屋も様々なサイズがあるため、使う会場の選択肢も多い。

### 2.5.2 提案2-2：運営側学生の金銭的補助（開始時期：2020年度）

現在夏の学校では、所属研究室から補助が出ない学生に「旅費宿泊費補助」を行っています。運営として必要な人員には、所属研究室から補助が出ない場合には希望があれば補助をすべきではないかと考え、提案します。

- メリット

- － 業務を引き受けていただいた方々に金銭的な負担まで強いるのは好ましいことではない。少しでも負担を軽減することができれば、業務をすることへの抵抗感を減らすことができるのではないかと。

- デメリット

- － 補助される人が増えるとその分補助の額や補助を受けられる人数が減少する。  
→ 当日参加する運営側の人員が少ないことは、夏の学校の健全な運営に支障をきたす恐れがあります。補助額や補助する人数は、センター校が様々な面を考慮し決定します。

運営側の学生に対して補助する割合は、発表する学生と同じ割合に良いのではないかと考えています。

### 2.6 提案3：夏の学校の形態の変更（開始時期：2020年度）

現在夏の学校では、「三者共通講義」とパートごとの「講義」と「研究会」が行われています。各役職校の負担を減らすため、ここではパートごとの「講義」をなくすことを提案します。また、それに伴い開催日数の短縮も提案します。ここでは、短縮する日数については具体的に決めずに、今後検討します。

- メリット

- － パートごとの講義をなくすことで、パート役職校の講義に関する業務や講師を囲む会に関する業務を削減できる。それにより、パート役職校の数を減らすこともできるので、その分他の役職校を担当してもらえる可能性が高まる。
- － 日数の削減により、運営側のみならず参加者側の負担も軽減できる。

- デメリット

- － パートごとの講義がなければ、講義を目的とした参加者が減少する。  
→ 三者共通講義によって素粒子・原子核に関する全体的な話を学び、研究会で学生の研究の話を見聞きすることで、自らの知識や興味を深めることができると考えている。



なお、研究会の割合を増やすことは今回の夏の学校でも行われています。これは、予算申請先の一つである基礎物理学研究所からの「発表者を増やすべきである」、「参加する博士学生を増やすべきである」という要望に裏付けられています。これらの要望は2015年ごろから定期的に挙げられ、努力が期待されていました。

パートごとの講義を削減することについて様々な考えがあると思いますが、夏の学校の役割には「参加者の交流を促進する」ことや「学生に広く研究の機会を提供する」ことも含まれています。この提案は上記の観点からすれば、夏の学校のあり方を大きく変えようとするものではありません。

## 2.7 役職校の業務

ここでは、三者役職校とその業務について確認します。

### 2.7.1 三者センター校

選定（現状）： $n$ 年度事務局校が $n+3$ 年度のセンター校を選定する。  
業務は以下の通りです。

- 外部団体への予算と協賛の申請
  - 8月：夏の学校終了後、外部団体への挨拶と援助申請の申込み。
  - 9月：秋の学会にて、援助申請。
  - 11月：基研への申請書類を作成・提出。協賛申請。
  - 1月：基研での予算申請。
  - 3月：春の学会において原子核系団体の総会に出席。基研HPへの情報掲載。
  - 4月：基研へポスター費用の申請。
  - 6月：素粒子論グループに援助金振込依頼。
  - 7月：物理学会誌への報告（執筆者を決めておく）。
  - 8月：夏の学校終了後、外部団体への挨拶と基研に報告書を提出。
- 予算管理、旅費宿泊費補助の決定
  - 9月：引き継ぎ後に担当年度の役職校予算案の募集を行い、暫定予算案の決定。
  - 10月：秋の三者総会にて、予算案を提出する。
  - 2月：修正予算案の募集。
  - 7月：夏の学校参加登録者の中から旅費補助希望者の名簿作成、補助額の決定。
  - 8月：夏の学校終了後、補助金の振込。
  - 10月：秋の三者総会にて、決算報告。
- web・sansha-ctr MLの管理
  - 基本的には担当し始めと終わりに業務があるのみ。

上記の業務の中で、センター校として活動する上で必須となる人員は以下の通りです。

- 代表：外部団体への予算と協賛の申請（1名、申請時点で博士学生）

- 予算申請担当：代表の所属するパートではないパートに所属する者（1名、申請時点で博士学生）
- 会計担当：予算管理、旅費宿泊費補助の決定（1名）

会計担当も1年間業務が続くので、担当する夏の学校が開催される時点で在籍する者に担ってもらう必要があります。以下の人員は上記の人員と比べると、独立に担当者を決めずとも活動ができると考えられる人員です。

- 副代表（1名）
- web・sansha-ctr ML担当（1名）

したがって、引き継いでからの1年間は在籍する3名の人員は必須となります。

### 2.7.2 三者準備校

選定（現状）： $n$ 年度事務局校が $n+3$ 年度の準備校を選定する。  
業務は以下の通りです。

- 12月頃：開催地の選定、下見。
- 3月頃：ポスター制作依頼のやり取り開始（正式依頼は4月）。時間割の決定。
- 6月頃：ポスター配布。参加登録フォームの作成、参加募集。
- 7月頃：名札、受付リスト、部屋割り、バス割、パンフレット、宿泊証明書、アンケートフォーム、領収書作成。メール対応等の作業。
- 夏の学校当日：会場設営、受付、開校式。本部（部屋の鍵受け渡しなど）。食事会場の準備、食事の受付。
- 夏の学校終了後：忘れ物のお知らせ。

上記の業務の中で、センター校として活動する上で必須となる人員は以下の通りです。

- 代表：校長を兼ねる（1名。ただし、共同担当の場合は各大学から1名代表を選出し、どちらかが校長でもう一方が副校長）
- ホテル担当：選定や下見、ホテルと連絡を取り合う。（メイン1名、補佐1名の計2名）
- 夏の学校準備担当（7名程度）
- 夏の学校当日担当（25名程度）

上記の人数は今年度準備校に確認をしました。代表やホテル担当は担当する夏の学校が開催される時点で在籍する者に担ってもらう必要があります。

### 2.7.3 三者企画校（2020年度より）

選定： $n$ 年度事務局校が $n+2$ 年度の企画校を選定する。  
業務は以下の通りです。

- 三者共通講義の講師選定、当日の座長

- 夏の学校ポスターセッションの運営
- 講師を囲む会のパート役職校との共同運営
- (パートをまたぐ企画の立案・運営)

企画校の活動が始まっていないので、どれほどの人員が必須となるかは不明確な面がありますが、最高でも代表1名を含む5名程度の人員が必要ではないかと考えられています。

#### 2.7.4 三者事務局校

選定(現状):  $n$  年度事務局校が  $n+2$  年度の事務局校を選定する。  
業務は以下の通りです。

- 三者総会の議案募集、運営、議案書作成  
秋(ML上、10月)、春(必要があれば春の学会において)、夏(夏の学校において)
- 三者若手名簿、YONUPA-MLの管理  
一斉更新作業は新年度になってから。その他の新規登録、脱退に関することは随時。
- YONUPA 及び夏の学校 HP の管理  
YONUPA HP については担当し始めてすぐに更新。三者総会前後や夏の学校に関する詳細が届き次第該当ページを更新。夏の学校 HP については更新依頼があったときに随時行う。
- 三者役職校の選定
- 役職校引き継ぎの管理(呼びかけ)  
夏の学校にて、役職校引き継ぎを行うことを呼びかける。

上記の業務の中で、事務局校として活動する上で必須となる人員は以下の通りです。

- 代表: 事務局校の業務の取りまとめ(1名)

代表は1年間同じ人物が担当することが望ましいです。代表1名で全ての業務を行うことは原理的に可能ですが、以下のような担当を設けることも考えられます。

- 三者若手名簿、YONUPA-MLの管理担当(1名)
- YONUPA 及び夏の学校 HP の管理担当(1名)

したがって、最低でも1名、最高でも3名の人員が必要となります。

#### 2.7.5 ハラスメント対策委員会

選定(現状):  $n$  年度委員が  $n+1$  年度の新委員を夏の学校参加者から男女1名ずつ選定する(事務局校は選定に関わらない)。この際、素粒子・原子核各パートから選ばれるようにする。

目的: ハラスメント問題の発生を未然に防ぐこと、万が一問題が発生した場合はその解決を図ること、及びハラスメントのない夏の学校の環境作りを目指し、今後の対策を立案することを目的として、2016年度より発足しました組織です。

## 3 補足資料

### 3.1 2016 年度ローテーション制度の要約

ローテーションの候補大学 M2, D1, D2 が安定して計 7 人程度以上在籍する大学を対象 (M1 は夏の学校の様子を知らないため、D3 は特に多忙なため、実働人数には数えない). ただし、M2 が多数在籍しているが大部分が就職する傾向にある大学は除外する。この条件を満たしつつ合計が 25 人程度以上になる

### 参考文献

[1] 総合研究大学院大学, 2016 年度春の三者総会議案書・議事録